

コミュニティ・スクールに関するQ&A

Q1 コミュニティ・スクールを導入するねらいは何ですか？

学校と地域が連携・協働し、当事者意識を持って子供たちの成長を支えていくことが、コミュニティ・スクールの一番のねらいです。

Q2 どんな仕組みで、何をやるのですか？

地域住民や保護者が、一定の権限と責任をもって学校運営に参画する仕組みです。コミュニティ・スクールを導入した学校には「コミュニティ・スクール協議会」が設置され、教育委員会から任命された委員が、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動について意見を述べたりします。

Q3 教職員の任用に関する意見にはどのようなものがありますか？

学校の抱える課題解決のために必要な校内体制の充実を望む意見など、校長のビジョンを後押しする意見が述べられています。

釧路市地域学校協働本部事業 ～コミュニティ・スクールと両輪で学校・家庭・地域を結ぶ事業～

学校・家庭・地域が連携、協力して子供たちの「生きる力」を育むために、コミュニティ・スクール導入校を対象に「地域学校協働活動推進員」を配置し、「統括的な地域学校協働活動推進員」と共に学校支援ボランティア、教育支援ボランティア活動の推進を図ります。

※地域学校協働本部は、統括的な地域学校協働活動推進員と地域学校協働活動推進員、推進員配置校担当職員、教育委員会担当者のほか、市内すべての学校支援ボランティア、教育支援ボランティアにより構成されます。

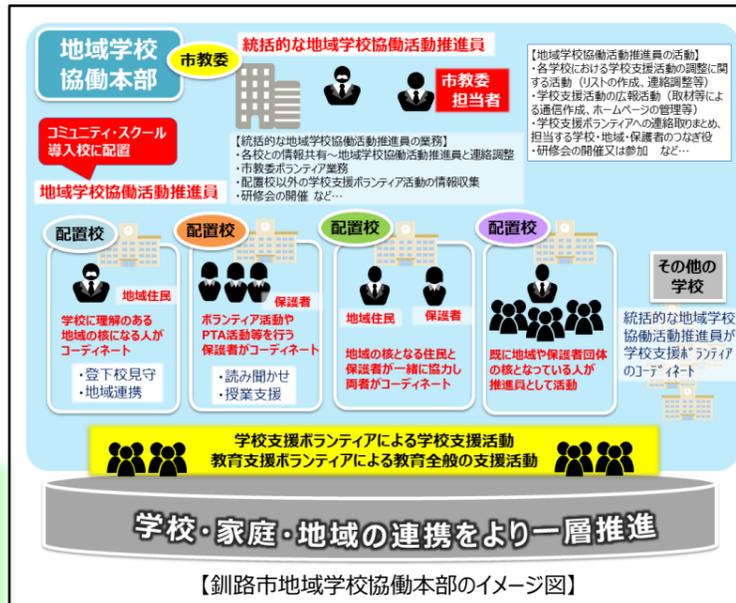


● 学校支援ボランティア

学校が窓口となり、様々な知識や技能、社会経験を持った保護者や地域住民にボランティアとして学校の教育活動を支援してもらう仕組みです。特に資格がなくても「子供たちのために何かしたい」という方が登録し、活動します。

● 教育支援ボランティア

教育委員会が窓口となり、特定の学校だけではなく教育委員会や各学校が行う様々な教育活動を支援してもらい、未来を担う子供たちの成長を支援していく制度です。団体登録もできます。



釧路市地域学校協働本部公式 Facebook

URL <http://facebook.com/kushiro.borasute>



釧路市 ボラステ



● このパンフレットについてのお問い合わせはこちらをお願いします。

釧路市教育委員会 学校教育課 教育支援課 教育支援担当

〒085-0016 釧路市錦町 2-4 釧路フィッシャーマンズワーフ MOO 4 階

電話：0154-23-5189 ファックス：0154-25-5999

e-mail：kyo-kyouikushien@city.kushiro.lg.jp

● コミュニティ・スクールの情報については、釧路市のホームページ（コミュニティ・スクールについて）をご覧ください。

釧路市 コミスク



釧路市 HP の
コミスクのページ
QR コード

※ 本資料は、文部科学省発行の「コミュニティ・スクール パンフレット」の内容を一部引用しています。

2019年4月発行

釧路市版



コミュニティ・スクール

～地域とともにある学校づくりの推進～



＝釧路市教育の基本理念＝

釧路の風土で生まれ 未来を拓く 心豊かな人づくり

＝釧路市教育目標＝

- ふるさと釧路を愛し 活力あるまちに奉仕する人づくり
- 伝統と文化を大切にし 主体的に学びつづける人づくり
- 進んで人とかわかり 豊かな心をはぐくむ人づくり
- 自然に親しみ 健康でたくましく生きる人づくり

釧路市教育委員会

釧路市のコミュニティ・スクールについて

～保護者・地域住民・学校が『地域とともにある学校づくり』を推進します～

釧路市では、国のいう学校運営協議会を「コミュニティ・スクール協議会」と呼び、「コミュニティ・スクール」を導入した学校には「コミュニティ・スクール協議会」が設置されます。

子供の豊かな育ちと学びを創造するためには、学校と地域の人々（保護者・地域住民等）が目標を共有し、一体となって教育活動に取り組むことが必要です。コミュニティ・スクールにより、学校と地域の人々が「こんな子供を育てたい」という『目指す子供像』に向かって、熟議と協働を重ね、学校運営に参画することができます。



*コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）に関する法改正（2017年4月施行）一部抜粋
（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の6）

- 学校運営協議会の設置が教育委員会の努力義務に
- 協議結果に関する情報を地域住民に積極的に提供することが努力義務に
- 複数校で一つの協議会を設置することが可能に

熟議

とは…

多くの当事者による、「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決を目指す対話のことをいいます。活発な議論により、的確に多くの人の意見を反映することができます。

具体的には…

- 1 保護者、教員、地域住民等が集まって「学校や地域の課題」を共有し
- 2 そのことについて学習・熟慮し、討議することを通して
- 3 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに
- 4 それぞれの役割に応じた解決策が洗練され
- 5 個々人が納得して自分の役割を果たせるようになるというプロセスのことをいいます。



【委員と教職員による熟議の様子】

協働

とは…

学校と地域の人々が共通の目標に向かって、互いを尊重し、補い合い、パートナーとして一緒になって力をあわせて活動していくことをいいます。一方的な「依頼」や単なる「支援」ではなく、互いが当事者として企画段階から「熟議」し、共通の目標に向かって協力して活動することにより、より効果的な「協働」が生まれます。



コミュニティ・スクール導入校の取組

中央小学校（2015年導入）

読み聞かせボランティアの「くまのがっこう」について、コミュニティ・スクール協議会の中で、学校が掲げる「豊かな心」の育成に向けて読み聞かせの必要性を話し合い、地域・保護者に呼びかけました。「くまのがっこう」のメンバーが年間を通じて、毎週木曜日、全学年で朝の読書タイムに読み聞かせを行っています。学年を問わず、子供たちは想像力豊かに耳を傾け、落ち着いた朝の時間を過ごしています。



大楽毛小学校（2015年導入）

大楽毛小学校の校舎は津波避難場所となっていました。巨大津波に対して高さ不足との指摘を受けました。町内会・釧路市との協議を重ねた結果、学校から1.2km離れた釧路新道を避難場所とすることになりました。このため、コミュニティ・スクール協議会の協議を経て、学校・町内会主催で児童全員が「非常持ち出し袋」を背負い、てんでんこ（一人でも多くの命が助かるために並んで避難するのではなく、ばらばらに逃げること）で避難する訓練を行っています。

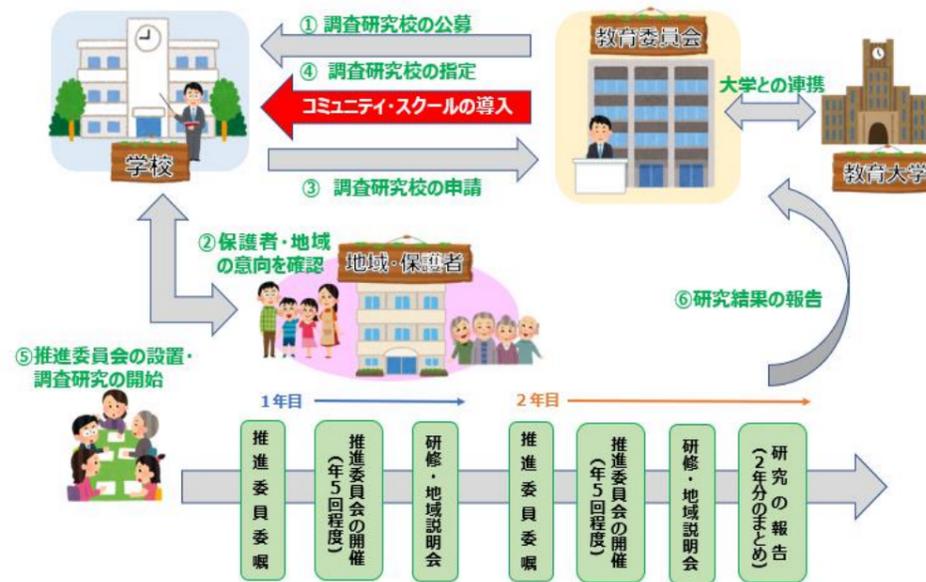


鳥取小学校（2016年導入）

学校運営について地域の協力を得ながら取組を進めています。その一つとして、地域に古くから伝わる地元の伝統芸能「鳥取しゃんしゃん傘踊り」を、地域の力を生かして子供たちに体験させています。また、学校支援ボランティア等の協力を得て、傘の補修体験や学校行事での披露などを通して、地域に愛着を持つ子供を育てています。



釧路市のコミュニティ・スクール導入までの流れ



- 1年目推進委員会の流れ(例)
- 委員の委嘱
 - 制度説明
 - 目指す子供像の確認・確定
 - 地域と学校の連携洗い出し
 - オープンミーティングの実施

- 2年目推進委員会の流れ(例)
- 委員の委嘱
 - 1年目取組の確認
 - 2年目の計画
 - 具体的な取組の検討
 - 導入後の計画
 - 調査研究の総括

● 釧路市のコミュニティ・スクール推進状況

2018年に策定された第2期の「釧路市教育推進基本計画」に基づき、2022年度までに市立小中学校を対象に右の表のとおりコミュニティ・スクールを導入する予定です。

現状（2018年3月）		目標	
小	23.1%（6校）	小	60.0%（16校）
中	20.0%（3校）	中	40.0%（6校）